

平成25年9月30日

関係者各位

学校法人 宮崎総合学院

理事長 川越宏樹

「学校関係者評価報告書」の公表について

このことについて、9月18日に開催しました「学校関係者評価委員会」の報告書を別添のとおりまとめ、9月27日開催の役員連絡会において報告いたしました。

ここに、「平成25年度宮崎総合学院 学校関係者評価報告書」を公表いたします。

今後は、各評価委員からの意見や指導等を真摯に受け止め、より良い教育、より良い学校運営を目指し、教職員一同努力して参ります。

引き続き、一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

平成25年度
学校関係者評価報告書



《実施日：平成25年9月18日》
学校法人 宮崎総合学院

学校法人宮崎総合学院 学校関係者評価報告について

学校法人宮崎総合学院では、平成 23 年度からすべての教育内容や通常の業務において、現状を点検して、更なる改善・向上を図っていくため自己点検・評価に取り組み、平成 24 年 6 月（第 1 回）、平成 25 年 7 月（第 2 回）に「自己点検・評価報告書」を取りまとめて、本法人のホームページ上で公表いたしました。

また、平成 25 年度は、本法人の各学校に関係の深い企業関連の方々を中心にご意見等を幅広くお聞きして、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく、法人全体に係る「学校関係者評価」を実施いたしました。学校関係者評価委員会では、多くの貴重なご意見やご指導をいただき感謝申し上げます。あらためて、学校評価の重要性を認識したところです。ここに、学校関係者評価の内容について報告いたします。

今後とも、より良い教育、より良い学校運営を目指し、教職員一同努力して参る所存でありますので、引き続き一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

平成 25 年 9 月

学校法人宮崎総合学院

理事長 川 越 宏 樹

1. 「学校関係者評価」の実施方法について

今回の学校関係者評価は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に沿って実施した、本法人の宮崎情報ビジネス専門学校、大原簿記公務員専門学校、宮崎福祉医療カレッジ、宮崎ペットワールド専門学校、及び宮崎サザンビューティ美容専門学校の「平成 24 年度自己点検・評価報告書」について、各専門学校に関係の深い企業等 6 名の評価委員（委員一覧表）に評価していただいた。

各評価委員には、事前に前記の自己点検・評価報告書及び学校評価に関連する資料等を配付した上で意見等を聴取した。

評価委員からの意見は、理事長以下各学校で組織する自己点検・評価委員会委員長（各校長）が承り、その内容等について要約の上、報告書として取りまとめた。

自己点検・評価報告書（平成 24 年版）と併せてご覧ください。

2. 学校関係者評価委員一覧表

評価委員	会社(企業)名	役職名	備考
川崎友裕	(株) M J C	代表取締役社長	◎ 委員長
児玉貴士	児玉貴士税理士事務所	事務所所長	
青山岩夫	社会福祉法人 つよし会	つよし寮寮長	
足利忠敬	(社) 宮崎県獣医師会	獣医師会会長	
杉馬場圭司	(株) ダリア 宮崎営業所	営業所所長	
岩田賢士	宮崎県立 宮崎農業高等学校 (県立学校長会 副会長)	校長	

3. 委員会次第(概要)

(1) 開会

(2) 理事長挨拶

(3) 委員長の選出

評価委員全員のご了承をいただき、(株) M J C 代表取締役社長 川崎友裕委員を委員長に選出した。

(4) 学校評価に係る経緯説明

事務局から、委員会資料「学校関係者評価の実施にあたって」、「専修学校における学校評価ガイドライン概要」に基づき、学校評価の目的や必要性及び経緯について説明した。

(5) 平成24年度自己点検・評価報告

各専門学校(5校)の校長から、各校の沿革を含めた概要(現状)について説明の後、本年7月に本法人ホームページ上で公表した「平成24年度学校法人宮崎総合学院自己点検・評価報告書」の点検・評価項目(1~8)達成状況及び取組状況について、課題及び改善策等を報告した。

続いて、事務局から評価項目「9 管理運営(法人)」について報告した。

(6) 討議・意見交換

各評価委員から、自己点検・評価報告に対するご意見やご指導をいただいた。

(詳細は後記のとおり)

(7) 閉会

4. 討議・意見交換について

点検・評価項目に係る達成状況に関する具体的な意見等も含め、各学校及び本法人に対して要望等を含め、次のような貴重なご意見をいただいた。

[各評価委員からの意見・指導等]

○ 児玉貴士 委員

- ・卒業後の学生に対するフォローアップを行っていただきたい。
- ・図書室、図書コーナーの充実を図っていただきたい。
- ・保護者の会は実態とは合わないのでは、内容が合致するののかという疑問点が残る。

○ 青山岩夫 委員

- ・介護福祉士に対する実習機会の充実が重要であり、また、ボランティアを通しての人材育成を強く意識した上で、実習生の受け入れにも協力していきたい。
- ・OJ T等活用して、即戦力人材の養成、地域貢献のための人材養成に協力していきたい。

○ 足利忠敬 委員

- ・評価項目での「やや不適切：評価2」及び「不適切：評価1」については、ホームページと学校要覧を充実すれば大幅に減少すると思われる。ホームページと要覧の充実をお願いしたい。
- ・現在は大卒者でも、「大人しい」「何を考えているのか」「人に聞くことが苦手」などの新人類現象というか、そんな兆候のある若者が増えている。獣医系の大卒者にも人とのコミュニケーションを取るよう指導している。人とのコミュニケーションができる人材育成に協力していくが、学校サイドでもリーダーの養成も含めた人材育成をお願いしたい。
- ・個人情報保護法にも配慮しつつ、学校関連の情報公開も積極的に行っていただきたい。

○ 杉馬場圭司 委員

- ・ブラッシュアップを行って組織化を進めていただくために、4点ほど提案させていただきたい。
 - ① 現場（美容室）とのギャップを埋めるため、また、離職率の減少を図るため、カリキュラム編成委員会等に外部委員（現場サイド）の参画をお願いしたい。
 - ② 企業との連携を重視していただきたい。例えば、美容師による授業を導入する等、美容師と接する機会の拡大やその環境作りをお願いしたい。
 - ③ 美容師の養成に対応する知識吸収のため、教員研修の充実も必要であると思う。本社も協力させていただくので、セミナー等にも積極的にご参加いただきたい。
 - ④ 美容室は、慢性的な人手不足の状況にあることから、県外からのUターン組や卒業組にも、学校の情報が共有できるような制度や環境を作っていただきたい。

○ 岩田賢士 委員

- ・高校等とのシステムの違いがあるとは思われるが、法人全体と各学校との評価を分離した方が、良いのではないかと。簡潔で教員の負担軽減にもつながるのではないかと。
- ・教育理念に、企業との橋渡しのための教育と謳っているが、人間性を涵養するための教養教育に係る位置付けが見えない。位置付けを明確にする必要があるのではないかと。
- ・図書室は一括集中型の方が、学生交流の場にも活用できるものと考えられる。
- ・「出口＝就職」が非常に重要であり、我々の使命でもある。今後とも連携協力していきたい。

○ 川崎友裕 委員長

- ・自己点検・評価報告書（平成24年版）については、全体的にすばらしい点検・評価内容であり、高く評価している。
- ・大卒3～4年での離職率が平均30%あるが、その原因は、個人的な粘り不足や性格・理想とのギャップが考えられる。インターンシップ等を活用し、学生の時に十分自覚させた上で就職させていただきたい。インターンシップについては、我々も大いに協力していきたい。
- ・今は技術革新の速度も速く、企業が求めている学校やその教育とのミスマッチがある。その隔たりを解消するためにも、学校のカリキュラムの編成には、企業等からも参画して業界からの意見が、大いに反映されるようなシステム作りをお願いしたい。
- ・県外ばかりではなく、県内にも目を向けていただきたい。また、正確な情報提供もお願いしたい。

最後に、委員長から今回は法人全体の「学校関係者評価委員会」ですが、各評価委員から貴重なご意見をいただき誠にありがとうございます。決められた時間内での討議であり、まだまだ各委員からのご意見もお聞かせ願いたいところではありますが、今後、各学校での開催が予定されております「学校関係者評価委員会」や「教育課程編成委員会」におけるご指導や意見交換に委ねることといたします。

以上で、討議・意見交換の議事を終わりたいと思います。大変お疲れ様でした。

5. 閉 会

終わりに、理事長から各委員へ貴重なご意見に対するお礼の挨拶を行い、その中でも、委員からご指摘のあった教養教育の位置付けや学生のコミュニケーションに関する課題等、今後、本法人における最大の課題・テーマとして、その改善方策を鋭意検討していきたい旨の報告があった。

以 上